

立川彫刻の伝承を

下諏訪 棟梁家保存会が総会

江戸時代の代表的な宮彫り「承・普及に取り組む」立川流
流派である「立川彫刻」の継 棟梁家保存会」は23日、総会



を下諏訪町の食祭館で開いた。棟梁家の子孫や関係者ら約30人が出席し、活動報告や取り組みについての情報を共有し、立川彫刻を伝承保存していくことを誓

総会である
いさつす
る立川流
6代目の
立川芳郎
尚富さん

い合った。

同町での総会は昨年に向けた2回目。立川流6代目の立川芳郎尚富(73)―本名・間瀬芳郎、愛知県半田市―は開会あいさつで、初代・和四郎富棟が諏訪の地で立川流をおこしたいきさつや2代・和四郎富昌が県内外に残した神社仏閣の彫刻を紹介し、「立川流の技術、資料を残すことが重要。一門総出で守っていきたい」と話し、資料散逸を防ぐため、今年4月に一般社団法人・立川内匠会を設立したことを報告した。

総会には立川諏訪一門の系譜を継ぐ宮坂徹下諏訪町長も出席し「立川流は諏訪の歴史文化にとって重要。6代目の思いを受け止め、諏訪でも立川流をきちんと伝えていきたい」と話した。

総会後には諏訪市にある2代・立川和四郎富昌の墓を参り、諏訪大社上社本宮を正式参拝した。
(後藤八十情)